

オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(312)(HP 収載) —1960年ショパン国際コンクール—

1. 始めに

前報(311)に引き続き、STAGE+の 1960 年ショパン国際コンクールの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、前報(311)に引き続き 1960 年ショパン国際コンクールの演奏を選びました。

1960 年ショパン国際コンクール (ワルシャワ)

マウリツィオ・ポリーニ

ポロネーズ 第 5 番 嬰ヘ短調 作品 44

(1960 年ライヴ・アット・第 6 回ショパン国際コンクール、ワルシャワ)

マズルカ 第 32 番 嬰ハ短調 作品 50 の 3 Moderato

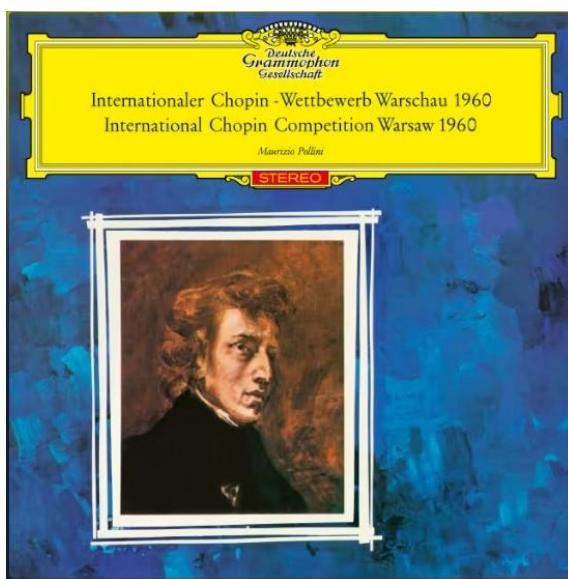
(1960 年ライヴ・アット・第 7 回ショパン国際コンクール、ワルシャワ)

即興曲 第 3 番 変ト長調 作品 51

(1960 年ライヴ・アット・第 8 回ショパン国際コンクール、ワルシャワ)

夜想曲 第 13 番 ハ短調 作品 48 の 1

(1960 年ライヴ・アット・第 9 回ショパン国際コンクール、ワルシャワ)



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結しています。

また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、LAN iPurifier Pro の交換後に元に戻しています。

今回は、PC の受信からクロック入力の修理済の Brooklyn DAC+に送り出しています。また、下記のとおり、PC と Brooklyn DAC+の間の介在は、iPurifier USB からインフラノイズの USB アキュライザーに交換しています。クロック入力は ABS-7777 を適用しています。

今回は、1960 年の第 6 回のショパンコンクールの優勝者ポリーニのライブ収録のアルバムを取り上げました。

上記のマズルカ第 32 番の第 7 回、即興曲第 3 番の第 8 回、夜想曲第 13 番の第 9 回の記載は間違いですべて 1960 年の第 6 回の演奏です。

晩年のポリーニの演奏に比べると、若いポリーニの粗削りながら。はつらつとした演奏です。

アナログ録音からのデジタル化で、ロスレスの配信なのですが、予想外にフレッシュな音で聴けました。

4.まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777 からのクロック入力の Brooklyn DAC+に送り出し、PC と Brooklyn DAC+の間には USB アキュライザーに交換した結果、若いポリーニの粗削りながら、はつらつとした演奏が、アナログ録音からのデジタル化で、ロスレスの配信により予想外にフレッシュな音で聴けました。

以上